

# 湘南学園だより

発行：湘南学園だより編集部



## contents



湘南学園100周年に向けて

第5回全学教研を開催

カフェテリアランチ体験

「湘南学園小学校2015」前半期教育活動の特徴について

小学校スクールランチとカフェテリアランチ

中高グローバル教育の展開と構想～S G Hアソシエイト校として

連続講演会の試み～湘南学園と鶴沼地域の連携を願って

ESDカレンダーの作成～生徒の主体的な学びを願って～

2015年度PTA始動

二年目のカフェテリア

同窓会室の今後

子どもたちは希望

学校法人からのご報告

理事長

学園長

幼稚園副園長

小学校校長

小学校

中高校長

中高企画主任

中高生徒会主任

中高教務主任

P T A 会長

NPO法人湘南食育ラボ理事長

同窓会会長

後援会会長

河野重男

仲本正夫

藤田さつき

榎本勝己

林田英一郎

山田明彦

吉川謙太郎

有蘭和子

伊藤真哉

大野圭介

小田拓也

寛元則

田辺真理

01

02

04

06

07

08

09

10

11

11

11

11

12

## 湘南学園100周年に向けて

理事長 河野重男

「光陰矢の如し(こういんやのごとし)」と申します。早くも年度後半をむかえ、さわやかな秋の季節となりました。

この時期には、幼稚園の「らんらん」(こらんど)運動会や「がちゃべたらんど(造形展)」、小学校の「体育表現まつり」や「音楽会」、中学校高等学校の「学園祭」や「中3、高2の研修旅行」など、芸術の秋、スポーツの秋を象徴する、湘南学園ならではの特色のある行事が行われます。

子供たちには、自分なりに全力で取り組み、楽しい思い出を残してほしいと思います。

湘南学園は、1933年に創立され、今年82周年に当たります。学園の様々な行事も、歴代の関係者の方々のご尽力により築き上げられた伝統の上に成り立っています。

### 伝統の継承と変革

私の住んでいる、藤沢市辻堂地区では、毎年7月に辻堂諏訪神社例大祭が挙行されます。

このお祭りの見どころのひとつに、藤沢市指定重要有形民俗文化財である4基の人形山車(にんぎょうだし)を曳航しての、太鼓(たいこ)を中心としたお囃子(おはやし)の共演があります。

太鼓は、主に小学生から中学生までの子供たちが演奏します。

お囃子の楽譜などは存在せず、実演により伝承されています。

我家の娘たちも、「辻堂南町お囃子保存

会」に所属し、幼稚園の頃から太鼓をたたいています。

娘たちが太鼓を始めたころの保存会は、年配の方々を中心に運営されていましたが、ここ数年は、この地区で育った20代前半の若者たちが集まり、子供たちの指導とお祭りの運営を担っています。

彼らは、祭礼の伝統を子供たちにしっかりと伝えるとともに、インターネットでの演奏お手本動画の公開や、ソーシャルメディアを活用した相互コミュニケーションなど、時代に合った改革をしていて、とても頼もしく感じます。

湘南学園でも、伝統を大切にしつつ、時流に合った改革を着実に実行していきたいと考えています。

### 湘南学園の中長期経営方針

法人理事会では、創立100周年に向けた、中長期運営ビジョンを検討中であり、今後様々なことを具体化していきます。

課題のひとつに、施設の有効利用と地域との良好な関係の維持があります。

施設及び用地については、長期的な戦略とともに、短期での活用策も重要です。

短期的な活用策のひとつとして、学園サポーターズクラブのご協力をいただき、中高隣地の学園用地にお花畑を準備しています。

来春には、子供たちの笑顔があふれるいやしの場となり、防災上の重要な空間ともなります。皆様ご期待ください。



「なぜ学ぶの？」をテーマに第5回全学教研を開催

## 教研に新風吹き込んだ高校生の意見発表

学園長 仲本正夫



第5回全学教研は、幼小中高校の実行委員6名(熊野谿寛実行委員長)の企画運営により、八月二十九日、午前10時より、幼小中高校の教員八十五名が参加して、『なぜ学ぶの?』子どもたちの主体的な学びを育てる教育実践—をテーマに、共同研究者として佐藤隆先生(都留文科大学教授)をお迎えして開催されました。今回の教研の大きな特徴は、高校生6名が自ら参加して意見発表し、感銘を与えたことでした。

教研全体の概要は『別表2 要項』をご覧ください。

えましい風景が続き、小学校の修卒業式では在校生と卒業生が一体となった感動的なコールと合唱風景が紹介されました。この2つの行事の発表は、第二に湘南学園で幼稚園から小学校をへて中高へどんなプロセスを経て成長していくのが全学的に初めて具体的に明らかにされたこと、第二に、卒園式や卒業式など幼小で子どもたちが本当に生きいきと参加する素晴らしい学校行事が行われていることを参加者が共有できたという点で、参加者からも「それぞれの成長がわかり感慨深い」など感想が寄せられ大変好評で、重要な意義をもつものでした。

とを先生たちに発表したいと教研に参加した高校生6名が、学校について思っていることを率直に発表し、これを受けてパネルディスカッションが行われました。

高校生は「学園はどこをめざして教育しているのか?」「課題や成績が学ぶ意欲をそいでいる。順位や補習はマイナス」「英語でちょっと上がったときに『すごいね』といわれたことでがんばりだした」「中高ではほめられることは少ない。認められるより指摘されることの方が

多い」「他クラスの生徒に平均点比べられて『へき』と言われた」など率直

な思いを教師にぶつけ、教研に新しい風を吹き込みました。時間的な制約もあり、十分な討議はできませんでしたが、アンケートからも高校生参加を91%が歓迎し、感想は、まずは、高校生の声を問題提起として丁寧にききとり、今後に生かしていきたいということが強く感じられるものでした。

共同研究者の佐藤先生は「日本の教育の抱えている究極の問題が提起されている。こういう議論が湘南学園でやれたことがすごいことだ」とまとめられました。

お昼はカフェテリアで『学園長カレー』食べ交流

午後3時から、まとめの全体会が開かれ、教研についてのまとめの講評が行われました。

昼食はカフェテリアで生徒に大好評だった『学園長カレー』を食べながらの交流。午後は①授業、②行事、③総合学習、④教科外活動の4つの分科会に分かれて2本ずつのレポートが発表され、討論が行われました。紙数の関係で内容にはふれられませんが、レポートのタイトル等は別表の要項をご覧ください。

分科会の形式や時間についてアンケートでは、95%が「良かった」「やや良かった」と答えており、感想からも討論が相当深まったものと思われま

す。

『生徒も学びをつくる主体者であり、発表を通して成長していく道が切り開かれた』

共同研究者の講評



第3分科会

午後3時から、まとめの全体会が開かれ、教研についてのまとめの講評が行われました。学園長は高校生がはじめて参加する教研となったこと、幼稚園と小学校のすばらしい卒業(園)式がビデオ紹介によつて全学で共有された意義についてふれました。また、共同研究者佐藤隆先生からは、「学ぶとは?」という教研テーマにかかわつて、「この教研が高校生の意見発表の場をつくり、全体が敬意をもって受け止めたことについて、生徒も学びをつくる主体者であり、意見発表を通して主体者として成長していく道が



開会挨拶をする学園長

### 子どもたちがひかり輝く 幼小の卒園式・修卒業式

午前中高ホールでの全体会では、学園長及び実行委員長の挨拶の後、幼稚園の卒園式や小学校の卒業式の感動的な様子がビデオで紹介されました。

幼稚園卒園式では一人ずつ「私の楽しかったこと」の発表でほほ

### 新風吹き込んだ 高校生の意見発表

続いて、自分たちの思っているこ



全体会の風景

との方が多い」「他クラスの生徒に平均点比べられて『へき』と言われた」など率直な思いを教師にぶつけ、教研に新しい風を吹き込みました。時間的な制約もあり、十分な討議はできませんでしたが、アンケートからも高校生参加を91%が歓迎し、感想は、まずは、高校生の声を問題提起として丁寧

開かれてきた意義は大きい」との  
講評をいただきました。

感想のほとんどが高校生の意見発表について触れていることも大きな特徴でしたが、同時に「ほとんど自分が進化していかなければいけない」、「教研を重ねることに幼小中高のお互いの理解が深まっている」、「二年に一度だが、湘南学園の財産になっている」など全学教研の意義を積極的にとらえていただくものとなりました。

第5回全学教研は、これからの学校づくりや教研のあり方に新しい視点が提起され、共有された重要な教研になりました。

### 【全学教研感想より】

#### 【高校生の意見発表について】

- ◆ 高校生の生の声がかきたことがよかった。
- ◆ 生徒が自らの学びをめぐめる環境について考えをめぐらし意見を発信できるのはすばらしい。
- ◆ 生徒たちが言える環境がある学園の幅の深さを改めて感じた。
- ◆ 高校生の問題提起は全学教研の中で終わらせるのではなく、検討部署を明らかにして、継続して議論できれば中高の発展につながると思った。

◆ 生徒が全学教研に出席し、「学び」という点から自分の中学・高校を振り返って話してくれたことは、大変貴重なことだった。

◆ 生徒が参加し、生徒と向き合い、共に考える対等の立場として考えあう。それが教育で、知識を押し付けるだけが教育ではない。

◆ 生徒とのディスカッションが大変よかったです。彼らの発言を「敬意」をもって受け止められるかが、問われてくる。

◆ 学年や教科指導でも、こうして生徒から意見を聞く場面は作ることができるかな、と考えています。

◆ PとTだけでなく、子どもたちも参加して学校を作っていければそれが湘南学園らしさかなと思った。

◆ 生徒の立場から「学ぶ意味」について語ってもらうのは画期的だと思った。

◆ 自分にもグサツときて振りかえさせられました。

◆ 一度、競争原理から離れ、「学び」そのものを考えていくべきか？

◆ 児童の参加も含めて次年度以降も子どもたちの声を聞く機会がほしい。

の連携・接続、一貫教育の中で生かしていくことが課題としてあると言える。

◆ 普通クラスの高校生や中3の生徒のパネルディスカッションを行うてほしい。

◆ Sクラスに偏ってしまっただけ。

◆ 普通クラスの生徒さんの声も聞きたい。

◆ そもそも教員研修の場に生徒が参加することは果たして良いか疑問に感じる。生徒に知られてはいけない情報の交換の場面もあると思う。特に「Sクラス

〈別表1〉 第5回全学教研アンケート集計結果

集計数 64人

	良い	やや良い	やや悪い	悪い	合計
① 幼・小卒園(業)式発表	42	21	1	0	64
② パネルディスカッション	45	15	3	0	63
③ 生徒参加	47	9	2	1	59
④ 分科会の形式	38	21	5	0	64
⑤ 分科会の時間	37	25	1	0	63

#### 〈別表2〉

### 2015年度 湘南学園 第5回全学教研集会(要項)

期 日 2015年8月29日(土)  
 教研テーマ なぜ、学ぶの??-子どもたちの主体的な学びを育てる教育実践-

- 午前 全体会** 中高ホール 10:00 ~ 12:00  
 開会挨拶 仲本学園長  
 「今次教研のテーマとポイント」(熊野谿 寛実行委員長)  
 子どもたちと学園の教育  
 報告1 幼稚園 「卒園式の子どもたち」(箕輪・中川)  
 報告2 小学校 「修卒業式の子どもたち」(中許)  
 <(休憩 10分)>  
 パネルディスカッション 中高生と語る「学園の教育」 司会(山田ミ)  
 意見発表 高校2年生 6名  
 パネラー 幼)中川、小)富田、中高)伊藤、実行委)熊野谿  
 <昼食・交流> カフェテリア 12:00 ~ 12:45
- 午後 分科会** 中高教室 12:55 ~ 15:05
- 第1分科会 「授業」(司会 廣瀬)  
 実践報告1 「学園小のかけ算指導について一学びをつなぐ一」(南田・鈴木ト)  
 実践報告2 「中学校数学 因数分解の導入」(河本コ)
- 第2分科会 「学級づくり・学年づくり」(司会 桑原・田中キ)  
 実践報告1 「伝え合う喜びを味わうために」(箕輪・中川)  
 実践報告2 「体育祭を通して生徒に伝えたかったこと」(田中キ)
- 第3分科会 「総合学習」(司会 山田ミ)  
 実践報告1 「へいわってなに?」~1年生・生活科~(岸田)  
 実践報告2 「湘南学園の総合学習から未来へ」(中高ESD推進委)
- 第4分科会 「教科外の活動(クラブ、行事など)」(司会 山田リ・熊野谿)  
 実践報告1 小学生のスポーツ事情~学園小と公立小の比較(五十嵐・前川)  
 実践報告2 部活動を通して成長する子どもたち(原・清水)
- 午後 全体会** 中高ホール 15:15 ~ 15:40  
 講評 ○仲本学園長  
 ○共同研究者 佐藤隆先生(都留文科大学文学部教授)

問題」のディスカッションについては、Sクラス反対の意見を教員が誘導するような生徒参加形式と思われるも仕方ない。

#### 【教研全体に関する感想】

◆ 生徒が興味を持って楽しく学べる授業をわれわれ教員がきちんと勉強してやり続けたいといけない。いつまでもずっと今のままじゃなく、どんどん自分が進化していかなければいけないと改めて感じました。

#### ◆ 教研を重ねるごとに幼小中高

#### 【分科会に関する感想】は省略

のお互いの理解が深まっている気がする。

◆ 分科会が長くなったことなど昨年の反省を生かした企画で正しい。

◆ 幼小の卒業式の様子は、それぞれの成長の様子がわかり、感慨深いものがあった。

◆ 幼小中高の教育実践をそれぞれ認め合う機会。一年に一度だが、湘南学園の財産になっている。

# カフェテリアランチ体験

幼稚園副園長 藤田さつき

湘南学園カフェテリアは、創立80周年を記念して平成25年11月に開業されました。「食育」を背景に、その運営を、NPO法人食育ラボ<sup>®</sup>が行っています。中高エリアにあるカフェテリアは、中高生にとっても、様々な食材と出会える場・温かく心のこもったおいしい食事の提供の場となっています。成長期である生徒たちにとって、健康と成長を図る上で重要な場になっていることが伺えます。

## ●カフェテリアの食事を全園児に●

このような食事を、幼稚園の子ども達にも食べさせたいという思いがありました。カフェテリアのテーブルや椅子の高さは中高生に合わせたサイズのものなので、カフェテリアの食事を全園児（年少〜年長児）が体験することが難しい状況にありました。開業当初の数は、年長児のみがカフェテリアに足を運び、ランチを頂くという状況

ろからのスタートでした。しかし、お弁当箱による出食が可能になったことで、昨年度の3月に初めて、全園児がラボ手作りのカフェテリアランチ弁当を頂くことが実現いたしました。

## ●3月のカフェテリアランチ体験●

このときのメニューは、唐揚げ・温野菜・果物でした。人參・ブロッコリー・ミニトマトも添えられていて、彩りも鮮やかです。



年少・年中組は、幼稚園といういつもの場所で頂くことで、安心して食事の時間を持つことが出来ます。お弁当箱を一人ひとりに渡していくと、「あっ！湘南学園のマークだ！」と、自分たちにとって身近な湘南学園マークがみんなのお弁当箱についていることを喜び声が聞こえてきました。「ほくにもついてる！」「わたしも！ほら、みて！」と、同じマークを見せ合っています。お弁当箱を開ける喜びが伝わってくるようでした。

中には、野菜が苦手な子もいます。初めのうちは、野菜のみ残していました。一緒に食べている友達が次々に自分と同じお弁当箱を空にしている様子を見て、自らパクッと口にしたり

がいます。その場面を見逃すことなく、「○○ちゃん、ブロッコリー苦手だったけれど、今、ひと口食べられたね！」と先生が声を掛けました。このような言葉を耳にして更に食べてみようという気持ちが掻き立てられ、全部食べられたことが自信となっていく……。そんなひと場面が各クラスで見られました。

また、この日は3月3日ひな祭りの日ということもあり、ラボの方々が心を込めて折り紙で作ってくださったお雛様が添えられ、子ども達の心をも満たしてくれました。このお雛様、よく見ると、それぞれ違う柄の着物を着ています。



ラボに携わっていらっしゃる方々は、湘南学園を支えてくださる保護者・OB・後援会の方々に運営されています。このように、様々な着物の柄を用意してくださるころからも、みんな同じではない。一人ひとりの個性を大切にしている幼稚園の保育理念をよく理解してくださっていることが伺え、更に嬉しい気持ちになりました。

## ●今年度の試み●

昨年度、全園児にカフェテリアランチの出食を実現できたことを土台に、今年度はカフェテリアランチを全園児で体験する機会を年間計画に組み入れ、「食育」を更に推進していくことにいたしました。

—今年度は—  
・6月9日 ・9月15日  
・12月3日 ・3月1日  
の年4回を計画しています。

## ●6月のカフェテリアランチ体験●

今年度、第1回目のランチは6月でした。ランチメニューを考える際に、幼稚園とラボと連携を取り合う中で特に配慮したことは、入園して間もない年少



組(3歳児)が食するという点です。食へやすさという点にも重点をおき、ひと口サイズののり巻き(そばろ巻きご飯)を用意してくださったことで、初めて頂く3歳児にも、無理なくこのランチ体験が実現されました。この点においては、日頃よ

り中高生達の心に寄り添い、生徒達の意欲新しいメニューを立案されているラポの方々のご尽力の賜物と言っても過言ではありません。

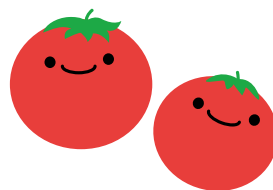
この日も、年少・年中児は幼稚園でカフェテリア弁当を頂きましたが、年長児はカフェテリアに足を運び、一人ひとり中高生と同じ椅子に座ってランチを頂きました。試験日で中高生の利用がない日に日程をあてたこともあり、広いカフェテリアが、年長児貸し切り状態に・・・入り口に用意された『さくらさん(年長組)ようこそ』という看板を目にする、子ども達の喜びは、更に大きなものになりました。園児を温かく迎え入れ、一人ひとりに声を掛けてくださるラポの方々の素敵な笑顔により、あつという間にカフェテリアが心温まる、ぼかぼかレストランに。テーブルの上に用意されたランチプレートを見て、「おいしそうー」「かわいいー」「はやくたべたいー!」などの言葉が聞かれ、嬉しくなりました。また、食べ終えた子ども達からは、「もっとたべたい!」「おかわりしたかったなあ」「せんせいーまたここ(カフェテリア)にこようよー」などと

いう声も聞かれました。また、この日に初めてトマトを食べられるようになったことが嬉しくて、「明日のお弁当にもトマト入れて!」とお母さんにお願する子もいました。



翌日、トマトが2つ並んで入っているお弁当を嬉しそうに開けて見せてくれました。幼稚園児の食育は、こうした子ども達の声にも丁寧に耳を傾け、そのことに応えてくださる保護者の方々のご協力に大きく支えられています。

今後のランチ体験が、更なる子ども達の豊かな食への関心に繋がっていくことを、強く願っております。



# 「湘南学園小学校2015」

## 前半期教育活動の特徴について



今夏の厳しい暑さが懐かしく感じられる頃となりました。保護者の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

「小学校2015」の前半期を振り返り、その教育活動の主な特徴をご報告させていただきます。後半期の取り組みにつなげたいと考えます。

1つは、「小学校教育改革基本大綱」の実現とそれを保障する「小学校隔週5日制」の実施初年度に入ったことです。実施にあたっては、PTAの皆様方のご理解、ご支援そしてご意見をいただいたことを改めて確認し進めて行きます。次年度を視野に学事日程をより練られたものに行事などを含めて落とし込んでいくことが求められます。

2つには、今秋11月に開催予定の湘南学園小学校公開研究会を目標にした質の高い教育の展開とそれを保障する教員の教育研究・実践を追求してきたことです。共同研究者の先生方をお招きしての授業内研究会や研修会を通じて、公開研究会の報告準備につなげていきます。また各種夏期教育研究会に少なく

ない教員が参加し、教師としての自らの教育実践力の相対化を図ると共に、その向上のために研鑽を積んできています。

3つは、小学校グローバル教育の取り組みを強化したこと。その一つとして、HAYA MAインターナショナルスクールとのサマーコラボプログラムを初めて開催しました。8月には企画委員がその様子を見学させていただきました。どの顔も楽しく生き生きとプログラムに取り組んでいたのが印象的との報告を受けています。その総括をふまえて、今後スプリングコラボロを含めて検討を進めます。二つとして、「異文化理解・外国語活動」を低学年から増単位実施をしてきました。大きな変化が見込まれる2020年度にむけて、湘南学園グローバル教育のコンセプトの確認と共に初等教育課程上の位置づけやスタッフの充実の検討も今後進めていくことが必要となります。

4つは、小学校が目指す「本物に触れる授業」としての総合学習を3学年（6年生「修学旅行」京都・奈良」、3年「海の学校」江ノ島」、4年生「山の学校」西湖）」において豊かに展開し、子どもたち一人ひとりが得た総合学力を確かめ合うことができたことです。こうした体験から子どもたちが興味関心を高め課題意識を醸成し、どのような取り組みにつなげて行ったのかを流れとして掴むことに努めます。

5つは、食育の理念の下に、学年ランチの実施を開始したこと。1学期にはすべての学年で約2回程度実施することができました。併行してラボお弁当配食も行うなど、子どもたちへ安心安全な食の提供を行っています（\*詳しくは林田総務主任論稿参照）。

6つは、小学校の新たな支援教育の在り方を検討し実践する取り組みを行ったことです。一つは人権教育の一環（いじめ防止プログラム）として、ピーター・ヤロウさん（伝説的フォークグループPPMのメンバー）による授業が行われ、多くのメディアに取り上げられ注目されました。NHK首都圏ニ

1スでも2回にわたり報道されました。夏期研修の一つとして、7月末には全教員によるDLAM研修会（「オペレーション・リスベクト」・ハートプログラム、私を笑わないで）を開催し、講師を招いて学び、今後の小学校人権教育の在り方の検討を進めています。二つには、大正大学サポートプログラム研修会を8月最終週に行い教育支援の在り方を検討する機会を設けました。教員一人ひとりがいわゆる「カウンセリングマインド」を心がけることを意識したものであります。

7つは、小学校説明会・体験授業、私立小フェアをはじめ通学圏の幼稚園・保育園、幼児教室訪問など入試広報活動を全学をあげて取り組み、2016年度小学校入試の成功にむけて意欲的な取り組みを進めていることです。改めまして保護者の皆様には、お知り合いの皆様は湘南学園小学校の魅力をお伝えいただき、受験いただくようにご案内いただければ幸いです。

## 小学校長 榎本勝己

8つには、夏休みに入る前の

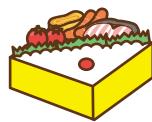
9つには、「湘南学園小学校アフタースクール2015」が発足初年度に比して質量両面で一層の充実をとげ、大きな教育的魅力の1つとして評価されるにいたっているということ。今後とも協力支援の協議をもちながら、より豊かで魅力的な湘南学園小学校アフタースクールとして育っていくための支援に取り組めます。

このような取り組みの成果と課題をふまえて、小学校後半期の教育活動の充実を期してまいります。

学びの姿勢づくりの1つとして、高学年を対象にした3日間にわたる夏期講習会を実施したことです。今年度より実施された隔週5日制にあたって、保護者の皆様から従来以上の学力補充への要望が出されていたのに応えるものとして組みました。



## 小学校「スクールランチ」と「カフェテリアランチ」



小学校 林田英一郎

### 「これまでの関わり」

八十周年を機にオープンしたカフェテリアと湘南食育ラボの皆様との活動。小学校は、初年度より、中高の定期試験期間を利用してランチを体験する機会をもつてきました。また、昨年六月からは、小学生に向けたお弁当の注文・配食をスタートさせることもできました。スタート当初は「二年生」このロケーションでしたが、翌七月からは全学年を対象を広げ運用が開始されました。

現在では小学校のお弁当配食は、毎回平均して四十食ほどです。そして、七夕メニューの際には八十九食、二期最後の七月十四日には二〇〇食を超える注文がありました。

こうして、小学生に向けたお弁当の注文・配食は、ラボの皆様のご尽力で、二年目に入って軌道に乗ってきております。

### 「スクールランチ」

これに加えて、今年度より小学校で新しく始まったのがスクールランチの取り組みです。

スクールランチは、それまでの個別のお弁当配食とは異なり、学年単位・三クラス全員で食育ラボのお弁当を食するというものです。保護者の方々には年度当初にPTAの場でお話をした上で、連休明けにスクールランチ実施についてのお知らせを配布しました。

一方、これまで各回平均四十食ほどのお弁当に加えて、スクールランチの日には学年人数分のお弁当を配食することとなるので、食育ラボの皆様とは、運搬、各学年・クラスへの引き渡し、回収方法などの運用面について、検討を重ねてきました。また、食育ラボでも、スクールランチ実施までの短期間の中で、急遽、様々な準備作業を進めていただきました。

スクールランチは、こうして五月十八日に六年生からスタートし、一学期の間は各学年で二回ずつ、合計十回のスクールランチを実施することができました。スクールランチの日には、学園の校章が入った黄色いお弁当箱が各クラスの前まで届けられます。これをクラスの子どもたち一人ひとりが手にし

てから「いただきます」となります。普段の教室の中で、全員が同じものを食べることは新鮮で楽しい経験だったようです。なかには食べず嫌いなものや苦手なものでもがんばって食べようという子どもたちの姿も見られました。



### 「カフェテリアランチ」

スクールランチとは別に、学年でカフェテリアに行つてランチを食べる体験をカフェテリアランチとして

が、明るくきれいなカフェテリアで皿に盛りつけられた料理を食べることは、スクールランチ以上に新鮮な体験です。そして、配膳や片付けの際にランチを作つてくださった食育ラボの方々とは直接にふれ合うことができることも重要です。カフェテリア利用に関しては、中高との日程の摺り合わせが必要ですが、二期以降も各学年でカフェテリアランチの機会を持つことができるように検討しています。

### 「ラボらぶ通信」

スクールランチがスタートした翌月から、小学校に素敵なお便りが届くようになりました。湘南食育ラボからの『ラボらぶ通信』です。

『ラボらぶ通信』は月刊で、表には季節に因んだ食に関わるお話や料理のレシピ、裏にはお弁当(スクールランチも含む)やカフェテリアランチのメニューや原材料、そこに含まれるアレルギーが「一覧」となつて提示されています。

これによって、安全・安心に食事をとることができ、二ヶ月分のメニューを望めることで、日常のお弁当を注文する子どもたちも含めて、楽しみが広がったことと思えます。



### 「スクールランチ」

#### 「カフェテリアランチのこれから」

これまでの学校生活の中で小学校の子どもたちが同じメニューの食事を食べる機会といえ、三年生以上の宿泊学習が真っ先に思い起こされます。しかし、これは年に一度の特別な行事でのことです。スクールランチはこれを日常の中で実現することとなりました。そこで、改めてスクールランチ・カフェテリアランチを織り込んだ小学校の食育について整備していかねばなりません。

「生活科で育てた野菜をランチに使えないだろうか…」など、小学校でも様々なアイデアがあります。今後、食育ラボの皆様とも相談しながら、協同して食育について考えていきたいと思えます。

# 中高グローバル教育の展開と構想

SGHアソシエイト校として

## 転換期に立つ学校教育と

### 湘南学園のミッション

日本の学校教育は歴史的な転換期に入りました。グローバル化で加速する社会変動、日本の政治経済や若者達をめぐる様々な危機の中で大胆な教育改革が急務とされ、大学入試と中等・高等教育の改革を軸に「21世紀型能力」を育成する課題が提起される情勢です。私学はどこも建学の精神を踏まえて諸課題に応える教育を充実させ、教育力を高められるかどうかの岐路に立たされているのです。

中高では「社会の進歩に貢献する明朗で実力ある人間の育成」という教育目標に沿って、6年間の系統的な総合学習を20年以上続けてきました。特に校外訪問や民泊も含む研修旅行など社会に生きる人びとと交流し直接に学ぶ機会を積極的に設けてきました。そして「ESD」の課題に沿って教科教育と統合して深めようと、創立80周年に「ユネスコスクール」へ加盟しました。持続可能な未来への意欲と展望を次世代の若者に培う

国際的なネットワークに参入したのです。

一方で海外セミナーの拡充を中心に、国際交流のプログラムを積極的に増やし、中高生の成長ぶりに手応えを深めました。「グローバル教育」は将来日本の浮沈に関わる重点課題とされ、文部科学省がその重点校を大学と高校で全国募集します。本校はこの春の応募で初参加ながらスーパーグローバルハイスクール(SGH)の準拠校として「アソシエイト校」に選出されました。

## 湘南学園中高のグローバル教育構想と全学的な御支援

本校の「SGH構想」を以下のように表現しました。〈湘南学園ESDで洞察力と行動力を育むプログラムの開発・保護者・卒業生・地域も参画するユネスコスクールからの挑戦〉。グローバル社会の進歩に貢献するリーダーの育成について、中高一貫と総合学園の教育を生かして全校規模で展開する位置づけです。

## 中高校長 山田明彦



ユネスコスクールとして重点目標を「独自のESDカレンダーを創造すること」におき、教科横断型の授業と「アクティブラーニング」の機会を広げ、独自の教育課程を探究します。歴史ツアーと連動したグローバル市民の在り方研究や地産地消を重視する食育活動も例示し、広範な学外のネットワークを築いた実績から、湘南地域や全国各地の生産者や大学、市民団体との連携を生かした教育の充実に留意しています。

湘南学園の強みは、保護者や卒業生や地域住民がフットワーク良く教育の充実のために参画できる、みんなで作る学校、の独自性にあります。80周年を機に芽生えた「食育」の志から、在校生卒業生の保護者が独自のカフェテリア開業を達成されたことはその証です。

グローバル教育への同窓会のご支援は圧倒的です。故森稔氏の御寄付を土台に教育振興基金が設立され、中国大学生の本校招待、杉原千畝氏の軌跡に学ぶ東欧歴史ツアーの開拓、国際ロータリークラブ提携の長期交換

留学などが実現しました。今年には台湾セミナー下見旅行、ISA K視察見学、信州のSGH指定校見学、米国トップランキン大学視察旅行などでお世話になり、情報収集や教員の研修強化に役立てています。PTAや後援会は、海外各地や在日の留学生等のホームステイの受け入れで多大なお力添えを寄せて下さいます。6月初旬には、湘南学園らしいグローバル教育とはを主題に「松ぼっくりフォーラム&PTAてらこや」を開催し、貴重なご提言を寄せて下さいました。「チーム湘南学園」の永続的なご支援に恵まれることも本校の強みです。

## 今年度の重点的な取り組みと 学園教育の可能性

アソシエイト校として全国的なネットワークに加わりましたが、財源的な公費支援はありません。今年度は掲げたSGH構想の中から可能な施策を選んで具体化し、次期の機会に備えて構想の再編成を行っていきまます。まず当面する大学受験でもグローバル社会の必須ツールとしても、英語力の強化は最重要課題のひとつです。英語初学者の意欲を高める集中特訓の機会も模索してきましたが、この夏「中学イングリッシュキャンプ」を開始し大きな手応えに恵まれました。中学の英会話TT・英検対策の強化や英書多読奨励、高校の新測定試験導入などもなされています。

「湘南グローバルサークル」発足の準備も進行中です。グローバル教育委員会の指導を受けて日常的な英語スキルアップ、海外招待の企画交流を進め、幅広くリーダー層を育成する試みであり、多数の参加希望が寄せられました。アクションプランに様々な創意工夫が寄せられることでしょう。またPTAを中心に3年間の実績がある「ヤングアメリカンズ」も継続し、今





回は中高を軸に全学的な支援を受け、学外にも参加を募って市の後援を戴きます。歌やダンスを通じたオープンマインドな自己形成をはかる教育企画であり、学園生の多数参加を期待しています。

そして「ESDカリキュラム構想委員会」を発足させ、全教科の担当教員が入ってカリキュラム全体の再構築を開始しました。中高生が「学ぶ意味」と「学ぶ楽しみ」をより自覚して自発的な学習へ向かうために教科間の連携をはかり、総合学習とのテーマ上の連携も探ります。専門家のお二人を助言者に迎えて、ESD推進委員会等を中心に進めています。

学園教育の諸活動を通して自主性を伸ばし、「周りの人達と協同する力」「周囲との絆やネットワークを広げる力」を、卒業後にも更に伸ばして欲しいものです。地球規模で相互依存が進んで、「人類共通の責任」という自覚が求められ、持続可能な生産と消費、新たな生活様式が追究されるべき時代です。地球は世界の人びとが共有すべき大切な共同体である」と説く『地球憲章』にも根本指針が示されています。海外研修やグローバルサークルで大いにスキ

ルアップし、皆が学び合いを重ねて洞察力や行動力を培い、誰もがリーダーとして地域や世界の進歩に貢献できる人間になっ

てもらいたいものです。国際留学交流事業の第一人者の方から先日、「湘南学園は日本では稀なタイプの学校だが、欧米では類似した活力ある学校が存在する。幼小中高を持つ総合学園として大いなる可能性を持っている」との励ましを戴きました。次世代の意欲と人間力を育てられる私学、グローバル教育の先進校を、皆さんの力を合わせて目指していけたらと願っています。



## 湘南学園と鶴沼地域の連携を願って 連続講演会の試み

中高企画主任 吉川謙太郎

すでにお知らせしていますが、中高では、地域の皆様にも広く公開させていただく形で、鶴沼地域の奥深い歴史や文化に学ぶ企画を、以下のように「連続講演会」のシリーズで開催しています。

### 連続講演会

〈第一期「鶴沼をめぐる人びと」〉

第1回 6月20日(土)

「鶴沼と湘南学園について」

内藤喜嗣氏(鶴沼郷土資料展

示室運営員会副委員長)

第2回 7月4日(土)

「杉原千畝について」

白石仁章氏(外務省外交史料館)

第3回 9月5日(土)

「東屋に集った作家たち」

佐江衆氏(作家)

第4回 11月7日(土)

「岸田劉生について」

内藤喜嗣氏(同前)

湘南学園が存する鶴沼地域は、湘南を代表する、閑静な住宅地です。様々な分野の第一線で活躍された方々が、実は大勢お住まいになってきた、教養豊かな地域としても知られています。

今回注目したのは、第二次世界

大戦終結後の1946年夏に、近隣に住む文化人からの依頼により、「鶴沼夏季自由大学」が湘南学園の講堂で開催されたことです。

その時の精神をもう一度復活させ、地域の皆様方との共創により、地域の「知」の拠点としての在り方も探っていければと願った次第です。「鶴沼」をクローズアップして、そこから学び直し、「鶴沼」から生まれた湘南学園の今後のあり方についても考えていければと思います。

地域の中から生まれた湘南学園の成り立ちを振り返り、地域と湘南学園がいわば再会する機会として、今後の連携を広げていく「環」にできたらということです。すでにいくつかの回が終了していますが、新聞や藤沢市広報にも掲載されたこともあり、予想以上の反響があり、多くの地域の方々においでいただいています。

ただ、残念なことに、湘南学園の生徒・保護者・教職員の参加が少ない状況です。特に生徒諸君には、自らが青春時代をおくる舞台について、より深く知ってもらいたいと思っています。ここがどんなに

素晴らしい場所なのか知り、何がしかの興味関心をもち、今後の自らの学びを豊かにする一助にしてもらいたい。

自らが関わる地域に関心を持つという姿勢が、「持続可能な社会の担い手」になることにつながっていくのではないかと思います。その意味で、この連続講演会の試みは、「ESD(持続可能な開発のための教育)」の環でもあるのです。

この「学園だより」が発行されるときは、まだ第4回が残っています。学園ホームページから参加申込をもらえればと思っております。教科書にものっている『麗子像』で有名な画家岸田劉生は、学園のすぐ近くに住んでいました。鶴沼は、そんな場所です。



# ESDカリキュラムの構築

## 生徒の主体的な学びを願って

### 中高の総合学習と現代

中高では1990年度から教科外活動のカリキュラムを作成し、実践してきました。当時「特別教育活動」と名付け、現在「総合学習」と呼んでいるこの活動は、「自他の関係や集団相互の関係、さらには実社会で起きている様々な問題を客観的な視点から捉えた上で、自分なりの考えをまとめ、表明する力を養うこと」を目的として、各学年の発達段階に合わせた学習テーマを設定し、各生徒が主体的に取り組めるよう配慮しながら、現場の教員たちが手づくり・手さぐりで実践を積み上げてきたものでした。

それから四半世紀の時が経ち、社会全体の様相は大きく変わってきました。今学んでいる中高生諸君がやがて足を踏み出していくこの日本社会も、情報化とグローバル化の中で国際的な競争力の強化が叫ばれるようになった一方で、採用や育成、若年層家庭への支援といった次の時代を担っていく人たちへの手当てが充分になされていると

は言えない状況が続いてきました。世界全体に目をやれば、厳然として存在する経済格差や貧困を背景にした環境破壊や食糧・エネルギーの確保、紛争や宗教間対立といった問題が地球規模で影響を及ぼす事態に立ち至っています。そんな先行きの見えない現代において、ひとりひとりの生徒に思考力・判断力・表現力等を早期に身につけさせるための取り組みを進めるよう、中学・高校段階での教育に対する社会的な要請も変わってきているのです。

### 各教科を巻き込んださらなる総合学習カリキュラムの編成

こうした昨今の社会的な変化を背景にして、中高の「総合学習」の教育目標はさらに重要な意味を持つてきます。前述した現代の諸問題はそれぞれに密接な関わりがあり、従来の人文科学・社会科学・自然科学といった枠組みからだけでは捉えきれない幅の広さを持つていますが、こうした諸問題に対峙し、自分なりの意見をしっかりと持

## 生徒会主任 有蘭和子 教務主任 伊藤真哉

つためには、何よりも物事を幅広い視点から多角的に捉えることができる素養を培うことが不可欠だと考えます。そこで、現在中高で進めているのが、各教科の学習内容のうち関連し合う分野はなるべく時期をそろえて複数の教科で横断的・多面的に学習することで、各事象の裏にあるつながりにも気づかせることができるようなカリキュラムの構築です。

例えば、中3研修旅行にむけて行う「教科横断型の事前・事後学習」があります。

この旅行に向けて、国語では、原爆投下とその後の被爆者の生活をテーマにした作品を読み、社会科学では、アジア太平洋戦争にじっくり時間をかけるとともに、憲法学習を軸に、放射線障害や「原爆症認定訴訟の今」について考えます。また、国語で『里山資本主義』（藻谷浩介著）を読みこむ授業を行い、それと並行して、社会では「人間らしく生きる権利」や、人間以外の生き物たちを原告とした「自然の権利訴訟」について学びます。これらの授業（教

科教育）が、その先の総合の時間における映像鑑賞学習や討論を深める有効な材料となりま

す。この他にも音楽で「ヒロシマ」を歌う実践。国語で、国際協力をテーマにした文章に出会い、児童労働の根絶に取り組むNGOを通じて、アフリカ・ガーナの子どもたちに英語でメッセージを寄せるという実践。物理や数学を通じて、放射能について考える実践。さらには、生物で里山や干潟、生物多様性について学び、英語で1992年リオ国連環境会議での「伝説のスピーチ」を視聴する…など

など、今後に向けて、各教科が実践してきたことを有機的に結びつけていくカリキュラムを構築していきたいと考えています。

### 湘南学園ESDが目指すもの

ねらいは、子どもたちの学びを豊かにしていくこと…つまり、「一つ一つの知識はぶつ切りで無関係なものではなく、関連しあい互いの知識を深めるために必要なものなんだ」ということを、生徒自身が気づけるようにしていくことです。家庭科

それができた時、生物で学んだ発酵のメカニズムを肌で実感する。総合で出会った農業者の方の話しを思い起こしながら、国際経済のグローバル化について考えていく…そうした日々の学びの中で、自己と他者の意見の違いに出会い、社会の中にある矛盾や葛藤を見つめる中で、自分自身の個性、生き方を選択していきけるようになるのではないかと考えています。

こうした生徒を育成していくことは、中高が二年前に登録された「ユネスコ・スクール」が掲げる「持続可能な開発のための教育（ESD）」の精神とも合致します。現在構築中の新カリキュラム「湘南学園ESD」が、次世代を担う諸君にとって個々の生き方・考え方の立脚点として活用されていくことを願うばかりです。



## 2015年度PTA始動 PTA会長 大野圭介

本年度、PTA会長に就任いたしました大野圭介と申します。前期PTAの全智を結集したヤングアメリカンズの感動が冷めきらない2015年5月、新年度役員会が始動しました。

湘南学園のPTA会長は学校法人の第2号理事に自動的になります。この役割は重要で、PTAと理事会相互の架け橋としての責任を負うことが求められています。PTAから出された課題について先生方と協議し、理事会への上程が適切と判断すれば、理事会の部長としてプレゼンテーションを行い、理事の議決に持つていくという役割が求められます。実際こうしたプロジェクトがいくつか動いています。

これまで、7月26日(土)には学園初めての試みとしてPTA公認サークルであるサポーターズクラブ主催の納涼「きもだめし」(写真)が開催され、小学生と保護者を中心に約200名の参加をいただきました。プロ級(?)のお母様も好評で、私もお面とシートをかぶりお化けにすっかりなりきり、納涼ならぬ汗だくのひとつときを楽しみました。

10月には恒例のパザールのほか、

11月には「PTAの日」を企画しています。「スポーツ交流会」「地域清掃」「てらこや」を1日で完結しようという初の試みです。ぜひ多くの方に気軽にPTAの活動に親しんでいただければ幸いです。



## 二年目のカフェテリア NPO法人湘南食育ラボ 理事長 小田拓也

開業から今日まで、何時も温かいご支援をいただき、本当にありがとうございます。

### 食育による貢献を果たす

カフェテリア運営もお陰様で二年目、開業当初はメニュー、食材の選択調製の方法など試行錯誤の連続といつてもよい状況でした。運営に安定が見られるようになってきた今、本当の意味での食育に依る貢献を果たせる段階となつたと

考えています。食育を理念に発足した湘南食育ラボ、これまで旬の食材、出来る限り天然素材を使用したメニュー採用を進めてきました。さらには地域の生産者の皆さんとの連携を図り、一歩踏み込んだ体制に進むべく取り組んでおります。

### 全学の皆さんへの利用へ

昨年開始した小学校児童の皆さんへの弁当提供から、今年度は、学年単位による利用へと広がり、さらに幼稚園園児の皆さんへの提供開始も視野に、文字通り湘南学園全体の為のカフェテリアの実現が近づいて参りました。安心・安全の食事提供が、より求められる環境へ移行する自覚のもと、スタッフ一同、取り組んで参ります。どうぞ、お気軽にカフェテリアにお立ち寄り下さい。

### 「同窓会室の今後」 同窓会会長 寛 元則

同窓生の交流の拠点として、創立八十周年記念館内に作られた、資料室や同窓会室が、徐々に可動して来ました。この拠点が今後増々広がりを持つていくことが、同窓会にとって現状ある重要な課題の一つであります。

同窓会は昭和十二年に誕生し

て以来、二万人以上の同窓生の名簿を掌握しており、学園の望む強い人間力を持ち、豊富な社会経験を積んで、現在も各界で活躍されている「OB」の方が数多く居られ、その方々と同窓会室で出会う機会を持つことは、湘南学園の将来にとって必ず役立つと思えます。

又、学園の今後の躍進は、チーム湘南学園(教職員、PTA、後援会、食育ラボ、同窓会)の相互連携と発展強化の為の、相互の交流の場、ディスカスの場として、気軽に同窓会室を活用して、考え行動を起す拠点にしていければと思っています。

同窓会は常も変わらず、湘南学園の発展の為に、学園の「OB」として、学園の飛躍することを考えています。その場作りとして、同窓会室、資料室が学園全体で活用されていくことを望んでいます。

### 「子どもたちは希望」 後援会会長 田辺真理

子どもは宝です。「全ての子ども達に、少しでも幸せな学園生活を送って欲しい。」そんな願いを込めて、私達は後援会活動を行うよう心掛けています。

八月二十八日、坂元先生(中高

家庭科教諭)のお手伝いで、中学一年生・高校三年生十数名の子ども達と味噌作りをしました。味噌作りの講師は、添加物化学調味料フリー、素性の判る安心安全な食材を使ったお料理店を開いている、元保護者で料理研究家の佐藤市子さんです。

作業をしながら話して下さる佐藤さんの教えは、味噌に蓋をする竹皮の殺菌効果、枇杷の葉の葉の効果。伝統食を頂いて繋げる命の尊さ。正に湘南学園が推進する食育そのものです。手際よく味噌を作りながら、目をキラキラさせて話を聞く子ども達の笑顔は私たちの希望です。

彼等を取り巻く環境全てが日々進化していく中、時代の流れに寄り添いながらも古来の伝統を守りつつ、子ども達の未来に繋がるような活動を、今後も続けていきたいと思っています。



## 《学校法人から》

### 【理事会報告】

これまでで、次の理事会を開催いたしましたのでご報告いたします。

第1回定例理事会	4月11日
第1回臨時理事会	4月24日
第1回常任理事会	5月15日
第2回臨時理事会	5月15日
第2回定例理事会	5月30日
第3回臨時理事会	6月11日
第3回定例理事会	6月27日
第2回常任理事会	7月10日
第4回定例理事会	7月18日
第5回定例理事会	8月22日

### 【主要な議題・報告】

- ・副理事長の選任・常務理事の選任について
- ・理事長・副理事長を代行する理事・代行順位の指名について
- ・理事職務分掌の決定
- ・事件・事故・非常事態発生時の連絡体制
- ・常任理事会への付託事項
- ・私学共済事業団からの借入金に係る連帯保証人の変更について
- ・カフェテリア業務委託に関する

る覚書に基づく支払資金の支払について

- ・企業財産包括保険（火災保険等）への加入について
- ・ヤングアメリカンズの開催について
- ・2015年度神奈川県私立中高協会の負担金等の支払いについて
- ・休日委員会指導手当の新設について
- ・2015年度中高生徒に係る健康診断業務委託について
- ・スポーツ振興センター災害共済給付掛金の支払いについて
- ・鶴沼6自治会に対する連続講演会のご案内について
- ・2014（平成26）年度事業報告の確定について
- ・2014（平成26）年度決算報告の確定について
- ・給与規則の改正について
- ・2015年度弁護士との顧問契約更新について
- ・中高生徒の登校指導に関する手当の支給について
- ・6自治会カフェテリア利用に関する入校方法について
- ・記念館天井吸音板張り替え工事業者の決定について
- ・幼稚園内装改修工事業者の決定について
- ・2016年度からの1年単位の变形労働時間制導入について

### 【評議員会報告】

これまでに開催された評議員会についてご報告いたします。

第1回評議員会 5月30日

### 【主要な諮問事項等】

- ・2014（平成26）年度事業報告について
- ・2014（平成26）年度決算報告について
- ・2015年度役員紹介について

### 【公告】

#### （次期学園長の選任について）

現伸本正夫学園長の任期が2016年3月末をもって満了するため、「学園長選任規程」第2条に基づき、学内および学外から同時に候補者を求めるものとし、次期学園長の選任をすすめています。次期学園長の決定は10月下旬を予定しています。本件に

係る問合せは、法人事務局までお願い致します。

### 【事務局からのご連絡】

お引越しの事由により、ご登録頂いているご住所が変更された場合は、誠に恐れ入りますが、ご住所変更のお手続きをお願い申し上げます。なお住所変更に係る所定の様式は、事務局にご準備させて頂いておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

### 「松ぼっくり募金」

#### 寄付銘板完成について

湘南学園創立80周年記念事業として去る二〇一三年二月より二〇一四年三月三十一日まで行いました「松ぼっくり募金」は、総額八千四百五十二万九千五百七十一円に達し、お陰様で食育推進のためのカフェテリアと資料展示室・同窓会室を併設した「80周年記念館」を建設し、またグローバル教育等の振興を図るための「教育振興基金」を創設することができました。

つきましては、御寄付を賜りました方々の御芳名を刻んだ銘板を、二〇一五年三月五日に

「80周年記念館」に設置し、御芳名を末永く顕彰させて頂くとともに、学園の歴史に留めさせて頂くことと致しましたので、ここにお知らせいたします。

### 【お詫びと訂正】

2014年9月29日発行の学園だより第121号でご報告した「松ぼっくり募金最終報告」につきまして、次の御寄付を頂いた方のお名前が掲載されていなかった事が判明致しました。

ご迷惑をおかけした事を謹んでお詫び申し上げます。ここに改めてご紹介させて頂きます。

（敬称略）

・一般寄付

（80周年記念館建設資金）

◆個人 須川花南子



80周年記念館に設置された「寄付銘板」